

夢のエンジン・廃墟からの誕生

- 視聴覚教材の効果的な活用を通して -

- (1) 主題名 強い意志 [1 - (2)] 関連項目 [1 - (4), 4 - (8)]
- (2) ねらい 困難な技術に挑戦するプロジェクトを成功に導くために果敢に挑戦する姿から、理想に向かって粘り強く努力する態度を育てる。
- (3) 資料名 「ロータリー47土の夢」(出典:プロジェクトXリーダーたちの言葉)
NHK「プロジェクトXロータリー47土の闘い~夢のエンジン 廃墟からの誕生」
NHK「プロジェクトXの旅、日本人魂の地へ」
- (4) 授業の展開例

	学習活動	主な発問と生徒の心の動き	留意点
導入	1 コスモスポーツの映像を見る。(DVD・VTR)・・・(1分)	この車を知っていますか。 ・知らない ・古そうなスポーツカーだ ・かっこいい	映像に集中させる。 この車は1967年に発売されたマツダのコスモスポーツであることを知らせる。
展開	2 広島の戦後の復興と東洋工業の関係を視聴する。(DVD・VTR)・・・(5分) 3 プロジェクトに取り組む山本さんの気持ちを考える。	困難とわかっているロータリーエンジンの開発になぜ松田社長や山本さんは取組もうとしたのか。 ・会社の命運をかけていたから ・広島復興の旗印になろうとした ・技術者としての夢に挑戦したかったから 山本さんは、周囲からの反発を受けたとき、どんな気持ちだったろうか。 ・なんでこんなに非難されなければいけないのか ・人が何と言おうとやり遂げてやる	資料の内容に留まらず、生徒の想像に任せて、様々な意見を出させる。 当時の背景に触れ、周囲の人々のプロジェクトに対する考え方を押さえておく。
	4 3つの大きな問題「カチカチ山のたぬき」「電気あんま」「悪魔の爪あと」を視聴する。(DVD・VTR)・・・(5分)		
	5 困難に立ち向かう原動力に迫る。	山本さんたちを大変な困難に立ち向かわせたものは何なのだろうか。 ・技術者としての意地 ・責任者としての責任感 ・夢を実現するためのチャンス	他人に与えられた苦労ではなくて、自ら買って出た苦労であることを押さえる。
	6 山本さんが語る原動力とプロジェクトの成功、その後の発展について視聴する。(DVD・VTR)・・・(5分)		
終末	7 自分の目標に照らして考える。	あなたの人生のプロジェクトで、くじけそうなときどうしますか。	心のノート(P.20)に感じたことを書かせる。

視聴覚教材活用のためのポイント

1 教材選びの観点

私たちは、平素から子どもたちの心に響く道徳教材を意識的に探したり、蓄えたりする作業を行う必要がある。その際、安易に時代の話題性に飛びつくのではなく、人間の生き方を深く考えさせる問題性や感動性を含んだ教材となりうるかという観点を忘れてはならない。

2 発問づくりのヒント

中心発問を考える。

- ・ねらいの必然性から生まれる発問
 - ・場面の特異性から生まれる発問
 - ・登場人物の台詞から生まれる発問（キーワードの活用）
 - ・ストーリーの節目で生まれる発問
- 中心発問を生かすための前後の発問を考える。
- ・登場人物への共感や感動を引き出す発問
 - ・日常の体験とつなげたり比べたりする発問
 - ・自分自身を見つめる発問

3 発問を生かすための場面選定

道徳の時間に扱えるのは、約15分間と見積もって編集を行う。

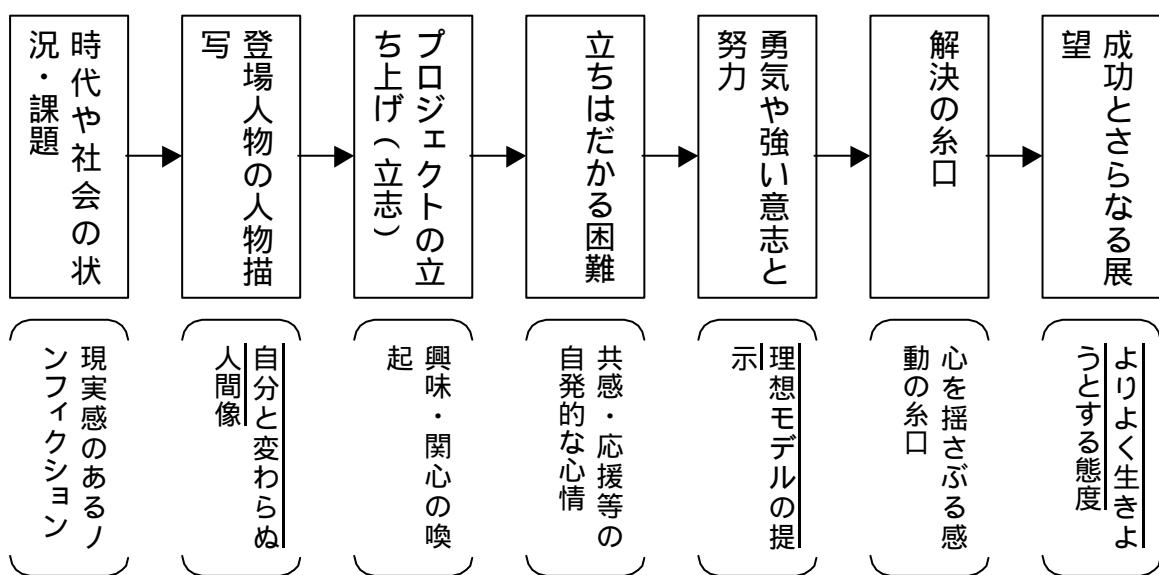
感動シーンはねらいにふさわしいか。

ねらいに迫る中心発問のためにはどの場面の視聴が必要かを吟味する。

中心発問に対する答にあたる場面を選ぶ。

臨場感をもたせるための場面選択 どこの場面が映像で示すに値するか。

4 番組の全体構成を読みとる（例：プロジェクトXより）



5 視聴覚学習資料活用の留意点

社会の抱える課題や人物の置かれた状況等の問題性だけを伝えるだけの道徳授業にしない。（教師の感じた課題を押し付ける授業にしない。）

登場人物の生き様の視聴に終始するのではなく、登場人物の葛藤や感動に一緒になって考え、感じられる発問を行い、仲間と意見交流する場を設定する。

生徒の発達段階を踏まえて、十分な理解と思索が可能になるように視聴覚教材を活用できなければ、道徳の時間に取り上げるべきではない。

活用に生かすための実践報告

「夢のエンジン・廃墟からの誕生」

1 主題の設定

人間としてよりよく生きるには、目標や希望をもつことが大切である。日常生活の中のほんの小さな目標であっても、それが達成されたときには満足感を覚え、自信と勇気がおこるものである。このことを積み重ねる中で、人生の理想や目的を達成しようとする強い意志が養われ、生きることへの希望もはぐくまれてくる。しかし、障害や困難に直面すると簡単に挫折してしまうこともあり、理想どおりにいかない現実に悩み苦しむこともある。

この資料は、地元企業マツダがロータリーエンジンを実用化させた物語をテレビ化した番組を活用し、困難に立ち向かい、夢を実現させる姿を描いたものである。目標を実現するために果敢に挑戦する姿から、困難に屈せず最後までやり抜こうとする意志と態度を理解させたい。

2 指導過程の工夫

導入では、スポーツカーが颯爽と走る動画を見て、堅苦しい雰囲気にならないようにした。また、読み物資料は用いず、動画と発問で授業を構成することによって、集中させることを考えた。

実際に放送された番組は45分であり、すべて使用することは不可能である。そこで、必要だと思われる部分を決めコンピュータで編集作業を行った。導入の1分程度のコンテンツと、展開の5分程度のコンテンツを3シーン作成し、ノートパソコンとプロジェクタを接続し大画面で提示した。

3 発問の工夫

困難に立ち向かわせる原動力を考えさせることが主要な発問となるが、「企業の利潤」という点を超えて考えさせたい。だからこそ広島の復興とマツダの関係をしっかりとおさえる必要があると考えた。

管理職である山本さんが一技術者としてプロジェクトに関わる姿を見て困難に立ち向かうエネルギーについて考えさせたい。

4 生徒の反応（授業後の感想）

プロジェクトXをよく見る生徒が多く、今回の番組を視聴していた生徒がかなりいたようである。しかし、動画を視聴する場面ではよく集中し、食い入るように見ていた。読み物資料にはない緊張感をつくることができたと思う。

山本さんの生き方に感動した生徒が多く、夢を実現させるために努力することが大切だとまとめている生徒が多かった。

5 実践者からの一言

地元の企業の話なので生徒は興味を持ったが、プロジェクトXは大人向けの番組であり内容的には難解だった場面もあった。第3学年で社会科公民的分野の企業のしくみを学習する頃にこの授業をすると、さらに効果があると感じた。

動画をうまく活用することにより道徳の学習もひと味変わってくると思う。年間計画の中にきちんと位置づけていきたい。

【参考資料】

今井 彰、「プロジェクトX リーダーたちの言葉」(文藝春秋)

（比和中学校 石濱守央）